

京都芸術 センター 通信

KYOTO ART CENTER
NEWSLETTER

November 2017
Vol.210

発行 | 京都芸術センター
2017年10月20日

11

TOPIC 01

KAC Performing Arts Program 2017 / Contemporary Dance 国際共同製作

RE/PLAY Dance Edit

2012年に初演されて以来、横浜、カンボジア、シンガポールにおいて、再制作上演が行われてきた『RE/PLAY Dance Edit』。5年の歳月を経て、満を持しての京都での上演です。

アジア各地で、現地のダンサーたちと再制作を重ねてきた本作。今回の京都公演では、これまでに本作に参加した日本、カンボジア、シンガポールからのダンサーに加え、2017年5月のオーディションで新たに斉藤綾子、吉田燦の2名のダンサーを選出しました。

斉藤綾子は大阪在住、サイトウマコト作品の振付助手を務めるなど、関西を中心に様々な振付家の作品に参加しています。吉田燦は静岡在住の新鋭18歳。幼少からのダンスの素養に加え、メルラン・ニヤカム作品でのツアー公演参加を機に、活動の幅を広げています。

——今回、普段はアジアの別の場所、別の文脈で活動するダンサー達との共演になります。また、それぞれのダンサーが自分自身の振付を行いますね。お二人にとって、自分の踊りのルーツや、それを構成する要素とはどのようなものでしょう。

斉藤：ジャンルではクラシックバレエとジャズダンスが基ですが、幼い頃から稽古場や劇場に「ずっと居る」機会に恵まれた事が、今の私に大きく影響しています。

吉田：私のダンスのルーツは日常の中にあると思います。もちろん今まで、クラシックバレエやヒップホップなど、様々なダンスも習ってききましたが、身体の中から自然と出て来るものが、私のダンスの一番のルーツなのかと思います。

——この作品では、繰り返すことと繰り返さないことが重要な鍵になっています。ダンスや普段の生活の中で、二度と繰り返さないと思うことはどんなことですか？

斉藤：舞台は繰り返さないものだと最近改めて思います。やればやる程、日に日に新しくなってしまう。もちろんそこが好きだし、繰り返す度に変わってゆく面白さを感じます。

吉田：私はダンスを含め、生活においてのすべてのことが二度と繰り返すことはできないものだと感じます。同じように感じる事があっても、まったく同じということは二度とないと思うから。

更に東京から、橋本匠との共作で2016年横浜ダンスコレクションコンペティション 審査員賞を受賞、踊り以外にもドローイングやイベントの企画を行うなど多角的な表現と、清新な身体感覚で注目を集めるAokidが新たに参加します。

——『RE/PLAY Dance Edit』への出演は初めてですね。

Aokid：普段の活動はドラマやシンガーソングライター、作曲家、劇作家、詩人など、バラバラなジャンルの人との共演が多く、クリエイションを通して徐々にコミュニケーションを取っていく感じなのですが、今回はダンサー同士なので、また違うプロセスになるのかなと期待しています。これを機会にそれぞれがどんなやり方をしているか、どんな景色を見ているのかを聞けるんじゃないか、見られるんじゃないかと楽しみです。

国外だけでなく、国内からも多彩な文脈や背景を持つダンサー達が集まる本作。スタイルや国境を越えて、踊ることの謎と驚きを見せてくれることでしょう！

////////////////////
様々な踊りのありさまを観られる本作。ダンサー達と、もしくは観客同士が本作について意見を交わせる関連プログラムも用意しています。公演と合わせてご覧ください！
谷竜一(アートコーディネーター)

KAC Performing Arts Program 2017 / Contemporary Dance 国際共同製作『RE/PLAY Dance Edit』

日時：11月25日(土)19:00、26日(日)15:00 会場：講堂
演出：多田淳之介
振付・出演：きたまり、今村達紀、Sheriden Newman, Narim Nam, Chanborey Soy, Aokid, 斉藤綾子, 吉田燦
料金：一般前売2,000円/当日2,500円、U25割引1,000円(前売のみ)
チケット取扱：京都芸術センター

【関連企画】

ウェルカムパーティー&ディスカッション「あなたのまちの踊りを教えて！」
日時：11月19日(日)18:00-20:00 会場：フリースペース
ゲストスピーカー：Sheriden Newman(シンガポール)、Chanborey Soy, Narim Nam(ブノンペン)、Aokid(東京)
料金：500円(ドリンク・フード付) 定員：40名(要事前申込)
※日英逐次通訳あり

※イベント情報(P2)もご覧ください

批評プログラム「(批評)をRE/PLAYする」
『RE/PLAY Dance Edit』上演後に、公募で募集した批評執筆者によるディスカッションを行います。執筆者は10月31日(火)まで募集します。
日時：11月26日(日)17:00-19:00 会場：和室「明倫」
ナビゲーター：藤原ちから(批評家・編集者)
料金：無料 定員：20名(先着順)
※募集情報(P2)もご覧ください

主催：京都芸術センター、NPO法人Offsite Dance Project、RE/PLAY Dance Edit実行委員会

Profile

◎演出

多田淳之介(ただじゅんのすけ)

1976年福井県生まれ、神奈川県、千葉県育ち、埼玉県在住。演出家。東京デスロック主宰。古典、現代劇、ダンス、パフォーマンス作品まで、言葉、身体、観客、時間によるその場での現象をフォーカスした作品を創作。全国の公立文化施設、教育機関でのアウトリーチや創作、アジア、ヨーロッパでの海外共同製作など「地域密着、拠点日本」をモットーに活動する。2014年韓国第50回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。2010年より富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督、2015年より高松市アートディレクターを務める。

◎振付・出演



Aokid(アオキッド)

1988年東京都生まれ、東京都在住。14歳の頃よりブレイクダンスを始める。2008年まで日本を代表するブレイクダンスチーム廻転忍者の一員として活動。東京造形大学映画専攻在学中より、イベントやパフォーマンス、コンテンポラリーダンスとしての上演作品制作などを始める。東京ElectrockStairs作品参加などを経て、アーティスト橋本匠との共作『フリフリ』が2016年横浜ダンスコレクションコンペティション審査員賞を受賞。現在、aokid city、どうぶつえんなどのプロジェクトやイベントを室内や野外でそれぞれ進行している。



斉藤綾子(さいとう あやこ)

1990年大阪府生まれ、大阪府育ち。現在も大阪府在住にて、関西を拠点に活動。幼少より踊り始め、大阪芸術大学舞台芸術学科舞踊コース卒業。在学中に望月則彦作品『カルメン』でカルメン役を踊る。卒業後は「斉藤DANCE工房」に所属しながら、サイトウマコト、高野裕子、素我蝶部、今中友子、きたまり/KIKIKIKIKIKIなどの作品に出演。サイトウマコト作品では振付助手を務める。2016年より益田さちとのユニット「...1[アマリイチ]」での活動を始める。



吉田燦(よしだ さん)

1998年静岡県生まれ、静岡県育ち、静岡県在住。6歳より前田バレエ団にてクラシックバレエを始め、15歳よりgrand-Gee-groovyにてヒップホップ・ソウルダンス・ロックダンスを始める。2013年より静岡舞台芸術センター(Shizuoka Performing Arts Center : SPAC)主催、カメルーンの振付家メルラン・ニヤカム作品『タカセの夢』『ANGELS』の2作品に参加し、カメルーン公演・韓国公演・国内公演に出演。2016年には西アフリカのブルキナファソにて、アフリカンダンスのワークショップに参加。その他、京都・福岡等で国内外の振付家のワークショップ等に参加し、国内及び海外作品出演を目指している。

TOPIC 02

KAC TRIAL PROJECT / Co-program
 カテゴリーC「共同実験」(リサーチ、レクチャー、ワーク
 ショップ)採択企画

西尾佳織 「内臓語にもぐる旅」



第2回勉強会の様子

「内臓語にもぐる旅」は、「言葉」と「身体」の関係性に迫る、西尾佳織との共同リサーチプロジェクトです。今年の8月から11月まで、「わたしたちの話す日本語はどうやって現在の形になったのか？」をテーマに、リサーチを進めています。11月には、公開勉強会とその報告会を開催します。

「内臓語にもぐる旅」は、あらゆる芸術の根本である「言葉」と「身体」の関係性を様々な切り口から捉えることで、日本語の底流にある思考を解き、創作を根底から見つめ直すことを目指しています。タイトルの内臓語とは、詩人・評論家の吉本隆明が掲げた言葉で、「腹黒い」「へそ曲がり」など、身体に関する具体的な言葉で精神の抽象的な事象を表す、オーストロネシア語群(もしかすと日本も含む)で話されたものです。

リサーチは、演出家、劇作家、プロデューサー、イラストレーター等、多様な背景を持つ7名のクリエイターグループで行い、個々に設定した小テーマのリサーチ経過を月に一度の勉強会(非公開)で発表するほか、日々、SNSで情報を共有しています。小テーマは、文化圏や時代による自他の捉え方の違いや可能性、内臓の営みの記号化、芸術作品における女性言葉など様々な分岐しており、大テーマの間に多角的にアプローチしています。

11月のリサーチ集中期間には、砂連尾理(振付家、ダンサー)と小川さやか(文化人類学者、立命館大学大学院准教授)をゲストに迎える公開勉強会や、これまでのリサーチのまとめとして報告会を行います。ほとんどの日本語話者にとって、普段話している日本語は幼いころからの教育で意図せず体得した言語であり、当たり前に在ります。クリエイターが、その言葉に潜む無自覚だった思想や体内との繋がりを発見する時、作品にどのように影響するのか、創作の源に迫ります。

京都芸術センターでの本リサーチは11月に一旦終了しますが、メンバーの旅はまだまだ続くので、今後の作品にどのように影響が現れるのか楽しみです。
 堀越芽生子(アートコーディネーター)

Profile

西尾佳織(にしお かつり)

1985年東京生まれ。幼少期をマレーシアで過ごす。東京大学にて寺山修司を、東京芸術大学大学院にて太田省吾を研究。2007年に鳥公園を結成。2014-2017年 アトリエ劇研アソシエイトアーティスト、2017-2018年度 公益財団法人セゾン文化財団ジュニアフェロー。

リサーチメンバー

西尾佳織(鳥公園主宰、劇作家、演出家)、篠田菜(仮面劇作家、田○田)、橋本仁(テレビドラマプロデューサー)、林伸弥(ピンク地底人主宰、劇作家、演出家)、山口茜(劇作家、演出家)、山本悠(イラストレーター)、和田ながら(したため主宰、演出家)

西尾佳織「内臓語にもぐる旅」

Co-Program カテゴリーC「共同実験」(リサーチ、レクチャー、ワークショップ)採択企画。

公開勉強会

第1回

日時: 11月14日(火)15:30-17:00

ゲストスピーカー: 砂連尾理(振付家、ダンサー)

第2回

日時: 11月16日(木)13:00-15:00

ゲストスピーカー: 小川さやか(文化人類学者、立命館大学大学院准教授)

リサーチ報告会

日時: 11月18日(土)15:00-17:00

報告者: リサーチメンバー

会場: ミーティングルーム2 料金: 無料 定員: 各回30名(要事前申込)
 主催: 西尾佳織、京都芸術センター

※イベント情報(P4)もご覧ください

TOPIC 03

Co-program 2018 京都芸術センターと共同で実施する 公演・展覧会・ワークショップ等のプラン募集!

創作・発表の幅をさらに広げるために、応募者と京都芸術センターが共同して開催するプランを募集します。

京都芸術センターは、挑戦的な芸術表現を追求するアーティストを支援しています。Co-programは、事業プランを公募し、その実現に向けて京都芸術センターと協働で取り組むプログラムです。公演、展覧会、リサーチ、発表に限定して支援を行う「KACセレクション」の、実施形態の異なるAからDの4つのカテゴリーから選んで応募してください。特にカテゴリーCは、発表を目的としたものでなくても、現状の芸術シーンにおいて必要と思われるリサーチ、レクチャー、ワークショップ等を対象とした柔軟性の高いカテゴリーです。

アイデアはあっても具現化する方法や場所が見つからないという若手アーティストや、自分たちだけでは実現が困難なプランに取り組みたい企画者に、ぜひ活用してほしいプログラムです。ワクワクするような企画をお待ちしています。

応募締切は11月18日です。応募に際して不明な点があれば、お気軽にお問合せください!
 奥村麻衣子(アートコーディネーター)

Co-program 2018 共同制作・共同開催・共同実験プラン募集

企画内容から広報、運営、発表まで京都芸術センターと共同で行う先駆的かつ実験的なプランを募集。4つのカテゴリーから選んで応募してください。

カテゴリーA: 「共同制作」(公演事業)

カテゴリーB: 「共同開催」(展覧会事業)

カテゴリーC: 「共同実験」(リサーチ、レクチャー、ワークショップ等)

カテゴリーD: 「KACセレクション」(演劇、ダンス、音楽、伝統芸能等の舞台芸術分野で、発表に限定して支援を行う)

応募資格: 意欲的な芸術表現を試み、市民との交流に対する意欲を持ちながら活動を継続的に展開している芸術家・芸術団体及びそれらを支援する個人・団体

応募期間: 10月23日(月)~11月18日(土)20:00(必着)

事業実施期間: 2018年4月1日(日)~2019年3月31日(日)

※支援内容はカテゴリーに応じて異なります。詳細は要項及びウェブサイトをご覧ください

※募集情報(P2)もご覧ください



Co-program 2017 カテゴリーB「共同開催」(展覧会事業)
 『のっぴきならない遊動: 黒宮菜葉/二藤健人/若木くるみ』 photo by Kai MAETANI



Co-program 2017 カテゴリーC「共同実験」(リサーチ、レクチャー、ワークショップ等)
 『カボエイラ・アンゴラー-身体・音楽・精神のトランス-』

公開!

新作戯曲第一稿、
 「S/F 一到来しない未来」



松原俊太郎
『カオラマ』



山本健介
『私たち五億一人一人』

「S/F 一到来しない未来」をテーマに、二人の劇作家が執筆中の『演劇計画II』。松原俊太郎、山本健介が取り組む新作戯曲の第一稿が、11月1日(水)、遂にウェブサイトにて公開されます。二人の劇作家は、果たしてどのようなSFを構想しているのでしょうか。公開された戯曲の第一稿はクリエイティブ・コモンズライセンスに基づき、一定条件下で自由な上演や二次創作が許諾されています。最終稿へ向かってだけでなく、ここから思いもよらない未来が生まれてくるのかもしれない。演劇計画IIアーカイブウェブサイトでは、戯曲第一稿のほか、創作に並行して開催されているKAC S/F Lab.の資料も順次公開していきます!

<http://engekikeikaku2.kac.or.jp/>

Since 1971

MAEDA'S COFFEE

KYOTO ART CENTER 1F
 MUROMACHI, TAKOYAKUSHI
 NAKAGYOKU, KYOTO
 TEL.075-221-2224
 10:00~21:30 everyday





NEW INCUBATION 8
 伊藤隆介×中田有美
 『ジオラマとパノラマ』
 『Diverging Realities』
 展覧会カタログ 定価 500円(税込)

京都芸術センター窓口、もしくは下記ウェブサイトよりご注文いただけます。
<http://www.kac.or.jp/shop/>

京都芸術センター



交通案内

- 市営地下鉄烏丸線「四条」駅 / 阪急京都線「烏丸」駅22番出口・24番出口より徒歩5分。
- 市バス「四条烏丸」下車、徒歩5分。

開館時間

- ギャラリー・図書室・情報コーナー 10:00-20:00
- 談話室・チケット窓口 10:00-21:30
- カフェ 10:00-21:30
- 制作室、事務室 10:00-22:00

休館日

12月28日から1月4日
 *設備点検のため臨時休館することがあります。

〒604-8156
 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏町546-2
 TEL: 075-213-1000 FAX: 075-213-1004
 E-mail: info@kac.or.jp URL: http://www.kac.or.jp/
 twitter: @Kyoto_artcenter
 http://www.facebook.com/kyotoartcenter

